

天保一〇	一八三九	内所の所人若島南極、神洲社を造営する。
文久元	一八六一	太平橋を架設す。
明治一三	一八八〇	坂本水手管務委員となる。
〇	一八八二	佐伯市より葛塚に至る道路通す。
〇	一八八二	上堅田村岡、各内田善太郎、私款を以て世能架設す。
〇	一八八二	日本小栗、佐伯港一部埋立(家屋建造)爲す。
〇	一八九二	大水害、市街家屋過半浸水す。
大正一二	一九二二	女島橋架設。
昭和八	一九三三	佐伯幹線道路埋立。
〇	一九四二	津志河内橋架設。
〇	一九五一	番匠川改修工事、国営移管。
〇	一九五六	池船橋永久橋となる。
〇	一九六五	幹線道路備装完成。
〇	一九七〇	坂本宗、佐伯市文化功労者として表彰する。

書翰

鶴や城に登りて 長崎市 一瀬フミ子

(御紹介) 去る八月某日、それは焼けつくような日
 ざしの強い午後、突然の電話をうけて上岡の
 十三重塔にかけつけて初対面、ハイチカンの御説
 明申し上げ、それから旧御殿の建物と、言われ
 るので船頭所に向案内申した方、小学校の先生、
 生、よくもばるる遠くまでいらしたものだ。
 次に掲げる礼状を頂いたので、小学校の女生で、
 かくもおれらの郷土の城跡を推賞下

下さったこと、城下のものとして談話された
 るものが多いため、特に先生にそうして、はが
 き全文、原文のまま、掲げさせて頂きます。
 (拜察)

前書ごめんください。

去る七月三十日に始めて佐伯市を訪れ、毛利氏の居城
 鶴や城へのほり、西出丸大門より入り、二カ丸跡、本丸、
 北出丸跡をひとり散策して、石置の丘。〇年の跡を偲び、
 古色そう然として今なお昔時を偲ぶ貴重な城郭は、今も
 なお胸おどる思いでいつげいず。

殊に本丸の石置は、他國の石垣にも珍らしい塔おとの
 美しさ、しばし眼をみはる思い、あつと驚きの声を上げ
 るほど素晴らしく、まことに芸術の一品を想おせる石が
 きでした。

一時間余も汗も忘れて石かきの前に立ちすくみ、後友
 び苔むした石垣をなでまわしたことでしよう。こんなには
 手輪を経た、古く美しい城壁を私は始めて見ました。
 へ津山の城にも、日出城、掛川城、駿府、浜松、原城など、
 どのよそをみても、この美しさは比べようもありません。
 せひせひ他人にはい友すうされぬよう、いつまでも保存
 してくたさいませ。

酷暑の中を、書院の移転場所までおつれくたさう、感
 謝するばかりでございます。

豊後路の城をおるき、この佐伯の城ほどすばらしい石
 垣はごやいませせん。印象はいつまでも胸の奥にやきつい
 ております。

今後共よろしく御指導ください。

(長崎市江里町九の二八)